

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょ

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 百楽殿
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	和歌山県西牟婁郡白浜町1313番地
記入者名 (管理者)	上岡 咲子
記入日	平成 20年 8月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様、職員という関係ではなく、家庭的な環境の中で、自立に向けた支援を行えるよう心がけています。また、安心感を持ってもらえるような環境づくりを目指しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務表や、職場内に運営理念を掲示し、職員一人ひとりが日々のケアの中でも再確認出来る様にし、日常の介護の方法や、問題解決のため、情報交換を行っています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念を掲示し、利用者様や御家族様、地域の方々に理解して頂ける様ボランティアの受け入れや、認知症サポーターの講座を開催し、地域への浸透を心がけています。	○	認知症ケア専門士の方々に御協力頂き、定期的に講義を行って頂いています。今後も地域の方々に実践している内容をお伝え出来る機会を積極的に作っていきたいと思っています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に民家が少ないが、毎朝散歩する方達が、挨拶を下さったり、老人会の役員様等に認知症サポーターとなって頂きまして、その時々で色々とお世話になっています。買い物等に出かけますので、スーパーの方、タクシー会社の方等見知りの人もできました。	○	NPO法人を設立し介護予防と町づくりに役に立てればと思い他のNPOの方達にも協力をお願いしながら、温泉療法や事業所主催のイベントも考案中です。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の老人会や、婦人会の方々を招いた御茶会を定期的に開催しています。また、白浜町のイベントにも参加させてもらっています。	○	地元の学校や、幼稚園の園児との交流の機会を作り、より一層地域行事にも積極的に参加し、ふれあいの場を増やしていきたいと思っています。地域に根付く祭り等も計画しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や、認知症サポーター育成の為に講習を行い、認知症ケアの啓発に取り組んでいます。	○	看護学生や、福祉専門学校生、地元の高校生等の体験実習の受け入れへの取り組みをしています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、職員全員で話し合いの場を持ち、自己評価を行っています。また、外部評価の結果も全職員に既読してもらい、意見交流の場を持っています。	○	評価結果を元に職員全体で協力し、当事業所らしい改善策を検討し、今後もより一層の啓発を心がけていきたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様にも参加いただいているので、いろいろな意見や提案を頂き、日々のサービス向上へ繋げています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修時に質問させて頂いたり、電話連絡、地域推進会議への参加で交流をしています。また、連携病院への会議にも出席させて頂き、日々のサービス向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	出来るだけ研修に参加し、制度の理解を深めるよう努力しています。また、勉強会を開き、研修内容を事業所内で報告出来る機会を設けています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、身体拘束廃止推進員養成研修に参加し、内部研修を通じて虐待防止の意義を学んでいます。管理者は、そのような事実は無いのか、確認を行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書・契約書を元に分かりやすく説明を行い、入居後予測されることも含め、当事業所が取り組んでいるケアの方針を理解していただけるように努めています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情受付の担当を決め、玄関に掲示し、いつでも話し合いの場を持てるよう体制を整えています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族様が面会に来られたときに日常の生活ぶりを報告しています。また、遠方の方には手紙や電話連絡を行っています。体調変化時は電話連絡を行い、早急に対応できるような体制を整えています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を取り合い、意見を伺いながら、日々のケアに反映出来る様心がけています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスの機会を設け意見交流を行っています。また、運営者も日常の介護を行い、職員の苦労や意見を理解していけるよう努めています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	小規模な事業所なので、豊富な人員確保は困難だが、運営者も日常の職務につき、職員の負担に勤めています。また、事業所内でのイベントや、利用者様の状態に合わせ、勤務時間帯の変更を柔軟に行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動時には、入居者様に不安を与えないよう、残りの職員で協力し合い、日々のサービスに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力や、経験に応じた研修に参加出来るよう計画を立てています。研修内容を内部研修で発表してもらい、残りの職員の啓発に取り組んでいます。	○	認知症介護の理解をより深める為、認知症ケア専門士の資格取得を目指しています。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟しており、研修会や意見交換が出来る様努めています。		
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会や、交流会、慰安会を行っています。マッサージのサービスや、毎日の温泉入浴でリフレッシュを行っています。また、運営者の好意で、職員の家族も温泉入浴や、花火大会時の宿泊等配慮してくれています。		
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員一人ひとりと話をする機械を頻繁に設けており、各職員の役割や、努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験入居を行い、入居前から信頼関係を築けるよう努力し、不安や心配事が軽減できるよう努力しています。また、利用者の状況に応じては、御夫婦で宿泊していただけるよう配慮を行い、柔軟な対応が出来るサービスに努めています。		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談を丁寧に行い、入居に至るまでの不安や、苦悩を理解したうえで、利用者様や、ご家族の方々が安心できるよう努力しています。また、今まで利用していたサービス事業所に情報提供をお願いし、日常の生活ぶりの早期把握に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人の状態や、家族の状況等を確認し、要望に沿ったサービスが行えるよう配慮しています。また、自分だったらどのサービスを受けたいかを思い、相手方にも話してみます。医療機関への受診案内も行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や事前面談を行い、要望に応じたサービスの提供が出来る様、利用者様やご家族の方と共に話し合いをしています。また、ご家族様と一緒に体験宿泊が出来るよう体制を整えています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	大家族と思っています。利用者様の得意なことを聞いて、食事作りや日常生活のなかで、御互いが支え合える環境づくりを心がけています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近状報告を行ったり、イベントへの参加呼びかけを行っています。また、日々の暮らしの中での出来事や、気づきの情報を共有し、同じ思い、同じ立場で見守っていききたいと思っています。家族様も又、家族です。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を作らず、気軽に立ち寄って頂ける様配慮しています。また、遠方の方については宿泊設備を整え提供しています。入居後の外出や、外泊支援にはご家族の状況に合わせ、当事業所の行える範囲で送迎を行っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が気軽に立ち寄って頂ける様配慮しています。面会時にゆっくりして頂ける様、居間の提供や、御茶菓子のサービスを行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係や、力、個性を生かせるよう配慮していますが、共同生活という観点から、助け合いや思いやる心を持てるような環境づくりを目指しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方でも、継続的に関わりを必要とされる方々にはイベントへの参加を呼びかけています。家族会や、運営推進会議にも参加して頂き、活発な意見を頂いています。季節の挨拶等もしています		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様の意見や意向を大切に、本人の思いを汲み取れるよう日々の生活での言動や、行動に注意をはらいながら、計画作成に取り組んでいます。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族、友人から生活歴等の情報を聞き、個性や価値観の把握に努めています。	○	センター方式の活用で、より充実した馴染みの暮らしが提供出来るよう努力していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状態、個人の生活リズム、利用者様の生活状態の把握に努めています。	○	センター方式の活用で、より充実した馴染みの暮らしが提供出来るよう努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議、モニタリング、アセスメントを行い、本人や家族、関係者、職員が協力し合い、よりよい計画作りを行えるよう取り組んでいます。職員同士はこまめにカンファレンスを行い検討会議を行っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	細かく検討会議を行いその都度、必要に応じた計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々パソコン上で全職員がいつでも介護情報が見られます。まず情報を見る、聞く、から仕事にはいります。必要時には検討会議を開き、個別記録を元に介護計画の見直し、評価の実施を行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医療機関の往診や受診、必要時には訪問看護をおこなってもらっています。	○	近隣の方で、自宅での介護が困難な時などに、宿泊等での一時的な対応や、柔軟な支援に取り組んでいます。日常生活や介護相談等も受けています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察官の方にも巡回をお願いしております。ボランティアの方も毎月定期的に訪問して対話、お茶会等協力をしてくれています。		
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所該当者はおられません。	○	他の事業所のケアマネージャーや、事業所との情報交換を行い、必要時には迅速に対応できるよう体制を整えていきたい。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの協力で、利用者様への訪問を行ってもらっている。また、情報提供や、アドバイスを頂き、日々のケアに反映出来る様心がけています。		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿った医療機関の選択が出来る様にしています。また、協力医療機関や、提携病院の協力により、外来受診や、往診を必要に応じて受けられるよう配慮しています。通院介助や、送迎のサービスも行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に受診介助し、専門医から直接指導して頂いています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理は看護職員が行いますが、定期的な往診、受診を行い、利用者様の健康状態の相談を行っています。また、休日時の急変や、夜間対応も24時間行って頂ける体制をとっており、必要時には夜間往診の協力もお願いしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要時には付き添いを行ったり、入院時の面会回数を多く取ることで不安やストレスの軽減に努めています。入院時には情報交換を頻繁に行い、早期退院の為に支援を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や、家族、提携医療機関と話し合い、方針を決めています。定期的に家族に状態を電話等で報告し、話しあっています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や提携医療機関に定期的な往診や、急変時の対応等の協力をお願いしています。また、希望時にはターミナルケアも行っており、終末期に向けての対応や、医療相談、看取り等も視野に入れ、柔軟な対応を心がけています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	希望される場合は、暮らしやケアの継続が出来る様、先方への情報提供を行い、ダメージの最小限化に努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての書類は事務所に保管し施錠しています。声かけについては一人ひとりの日々の関わりの中で、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないようにさりげない声かけを心がけています。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの理解度に応じて、選択できる機会を設けるよう努め、自分で決める支援が行えるよう心がけています。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた暮らしを心がけ、日常的に外出や、ゆっくりと過ごせる時間を取れるよう工夫しています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服選びは出来るだけ本人にしてもらえるよう支援しています。近隣の美容室に出張理容して頂いたり、外出できる方には美容室への送迎を行っています。また、馴染みの美容室がある方には御家族様と協力合っています。	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を聞いてメニュー作りを行っています。食事作りも利用者様と職員が一緒に行い、片付け等もして頂いています。職員も同じものを利用者様と一緒に食べて食事を楽しむ雰囲気作りを大切にしています。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時に御酒を飲んでもらっています。オヤツも健康面に配慮しながら、できるだけ希望されるものの提供に努めています。利用者様と職員が一緒に作ったりしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。また、排泄介助時の状態から、決めた時間以外にもその都度予測出来る時間帯を考え、誘導や介助を行えるように心がけています。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	随時声かけを行い、自分のペースで自己決定出来るよう支援しています。入浴時間も本人のペースに合わせた支援が出来るように配慮しています。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調や、体力に応じて居室で休んで頂く時間を設けています。眠れない時は御茶やミルクを飲んでもらいリラックス出来るよう配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、洗濯、掃除、園芸や工作等思い思いの時間を過ごしてもらえよう心がけていますが、重度化に伴い難しくなっている方も居られます。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様のご協力により、小額の御小遣いを所持して頂いています。買い物時は自分で支払っていただける支援を行っています。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、一時帰宅、買い物、ドライブ、外食等の外出支援をしています。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ピクニック、ドライブ、花見、盆踊り、そうめん流しなど、季節感を感じられるように努めています。家族によっては旅行する方もおられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は基本的に自由に行えるよう支援しています。自分では困難な方にも職員が協力し、行えるよう手伝っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくり過ごして頂けるよう居間を開放し、御茶やお菓子を 出して、一緒に過ごせるよう配慮しています。また、共有スペースで他の利用者様と談話して過ごされる御家族もあります。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修を通じ、身体拘束をしないケアについて理解している。緊急やむおえない場合にも出来る限り拘束せず にすむよう相談、話し合いを行っている。やむおえず拘束する場合は、ご家族の方に十分説明し、文章での同意を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関は施錠していません。玄関にセンサーを設置し、利用者様が外出したことを察知できるようにしています。外出された場合も、安全面に配慮しながらしばらく散歩を楽しんでいただいています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされているときも、利用者様の不快にならないように配慮しながら安否確認を行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況、変化に応じて職員で把握し、保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を把握し、予測されるリスクを理解し、防止できるように努めている。また、消防署等の協力していただき、定期的に火災訓練や非難訓練を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、定期的に研修を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、災害時には各機関への通報により協力頂ける様お願いしています。防災訓練を定期的に行い、避難誘導の訓練を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の利用者様の状況に応じ、考えられるリスクの説明を行い、ご家族の方々に理解して頂ける様に心がけ、話し合いの場を持てるよう配慮しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日14時に健康チェックを行っています。異変時にはその都度対応し、提携医療機関との連絡を密にし、異変の早期発見に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容をいつでも閲覧できるようにし、変更時には申し送りを行い誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に安易に頼るのではなく、食物繊維を多く取れるように工夫をし、十分な水分摂取を促しています。その他にも健康体操や、散歩、腹部マッサージを行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に応じた声かけや介助で、毎食後に口腔ケアを行っています。義歯の消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ偏らない食事作りを心がけています。食事量や水分摂取状況は個別記録に記載しています。利用者の状態に合わせてとろみや、キザミ食等の対応をしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、活用しています。手洗い、温泉水でのうがいをこまめに行い、感染予防に努めています。インフルエンザの予防にも家族に同意を得てワクチンの接種を行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用と管理に努めています。まな板、スポンジ、布巾は毎日ハイター消毒を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう観葉植物を置いたり、中庭を工夫したり、生け花を置くなど季節感を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感を味わってもらっています。日差しがきつい時等は、よしずで直接日が当たらないよう配慮しています。季節に応じた換気を行い、自然の風を楽しんで頂けるようにしています。また、入居者様の状態に応じ、居室のレイアウトを考え、柔軟に環境を整えるように努力しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で自由に過ごして頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただけるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は窓を開け、換気を行っています。冷房・暖房を使いすぎないよう、自然の環境を大切にしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープ、手すりを設置していますが、不十分な所もあります。徐々に改善していけるように対策を行っていますが、不十分な点は職員の見守りや、介助で補っています。	○	個々の身体機能に応じた環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握しながら、目印や馴染みのものを生かすなどそれぞれに合った工夫を考えています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い中庭を利用し、園芸や御茶会を行っています。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人ひとりを尊重し、幸せを実感し、心豊かに暮らして頂けるケアに繋げていけるよう努力しています。

遠方のご家族様にも気軽に来て頂けるよう宿泊設備を整えています。

体験入居を行い、安心して入居していただけるよう配慮しています。

ターミナルケアについても、本人や御家族の希望を重視し、看取りケアの取り組みも行っています。

職員や入居者という隔たりを無くせるよう、皆で食卓を囲み、にぎやかに過ごしています。

白浜温泉掛け流しですので、入居者様だけでなく、御家族の方々にも気軽に入浴してもらえるようにしています。